

# 小田原牛小屋丁



## ～～伊達政宗の秘めた野望～～

名掛丁東名会 梅津恵一

古い伝統を持つわが母校、東六番丁小学校の校歌は「小田原田圃前に見て…」という歌詞で始まる。かつて小学校の周辺には小田原山本丁や小田原長丁など小田原のつく町名が40近くもあった。異常な数だが、その中で「小田原牛小屋丁」（現住所は小田原 2 丁目）という変わった名前があった。そこには思いもよらぬ秘密が隠されていた。

関ヶ原の天下分け目の戦に徳川家康が勝利したのは慶長元年、その年に伊達政宗は青葉山に仙台城の築城を開始した。その本丸は日本一の工匠と称された刑部左衛門国次を棟梁に抜擢して、太閤秀吉が建てた聚楽第と同じ規模の豪華絢爛たる桃山式書院造りの御殿を建築した。秀吉は聚楽第に後陽成天皇を招き、同席した諸大名に秀吉への忠誠を誓わせた。

政宗も秀吉と同様に、本丸の大広間の東北隅には上々段の間を造った。そこは、万一の際、天皇を仙台にお迎えする際の行在所（あんざいしょ）として設けられたという言い伝えがあった。慶長15年に落成して以来、政宗は在国の正月元旦には衣冠束帯の正装で、又メと称する一段高い敷居の外から床の間を礼拝していた。

同時に、政宗は天皇のお乗り物の鳳輦（ほうれん）を牽かせるための用意として、小田原で牛を飼育していた。その地は小田原牛小屋丁と呼ばれて、付近の小田原車町には車大工が配置されていた。小田原八丁が開けたのは寛文7年とあるので、牛小屋丁は小田原の草分けであるばかりではなく、政宗が天皇を崇拝する勤王の大名であると共に、天下取りを意識していたことを証明するものだった。牛小屋丁で飼育されていた牛は何十頭という数で、牛飼いは屋敷と扶持を支給していた。そのために、何時仙台にお出でになるのかわからない天子様のために遊ばせておくのはもったいないというので、牛たちは年貢米の運搬や諸侍の屋敷替えの時の家財道具の運搬に使われた。また榴ヶ岡の北半分は藩の木材蔵だったので木材の運搬にも使われた。

仙台開府当初、政宗は宮城野原の五輪下から塩竈への運河の工事に着手したが、幕府に無届だったので中止を命じられた。天皇のお乗り物はともかくとして、牛小屋丁の開設は運河計画に付随するものでもあったと思われる。

三代綱宗の時代になると、今度は正式に幕府の許可を得て運河の着工が始まった。四代綱村の時代には塩竈鶴ヶ浦と蒲生間に舟入掘運河を、蒲生からは冠川を利用して福田町の鶴巻と苦竹の間に船曳運河が造られた。同時に、中継地として蒲生の舟入と鶴巻、運河の最終地としての苦竹の3か所に米蔵が建てられた。更に榴ヶ岡（現仙台第四合同庁舎付近）には大きな茅葺きで、校倉造り

の原町米蔵が6棟も造られた。苦竹の米蔵から原町米蔵への輸送に大活躍したのが牛小屋丁の牛たちであった。秋になって年貢米のお蔵入りが始まると、毎日何十頭もの牛たちが駆り出されて原町の宿場町を行列となって米俵を運んだ。このような牛たちによる輸送はいつしか途絶えてしまった。ところが、明治時代になるとすき焼きなど牛肉を食べ始め、また、牛乳の需要もあったので、大正時代に発行された地図には佐藤牛舎、安井牛舎、山本牛舎、手島氏邸牛舎など、いくつもの牛舎が残っていた。また、昭和の時代になっても清水沼付近に、森牛乳屋や赤間牛乳屋といった牧場が存在し、今でも乳製品の販売を生業としている会社があるのはその名残であろう。

徳川の太平の世はおよそ300年も続き、牛小屋丁の牛たちは、ひたすら米や材木の輸送するのが本業となってしまう、天皇をお乗せした鳳輦を牽く役目は一度も仰せつかることはなかった。そのために牛小屋丁を造った政宗の意図はいつしか忘れられた。また昭和39年に施行された仙台市住居表示法に関する条例により、町名の簡素化で小田原牛小屋丁の町名は消え、住宅街となったこの地で牛が飼われていたことも忘れ去られてしまった。

戦国時代は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康とその主役の座は目まぐるしく変化した。彼等よりも遅れて生まれた政宗はその時代の流れの中で天下を取る機会を逸してしまった。しかし、政宗は松島の瑞巖寺を建築した際にも、天皇をお迎えするための上々段の間に行在所を用意した。また失敗に終わってしまったが、支倉常長をヨーロッパに派遣し、ローマ教皇やスペイン国王の権威を借りて国力を増大させて、「機があれば天下を」という野心は捨ててはいなかった。小田原の片隅に政宗の天下取りの野望が隠されていたとは夢にも思わなかった。

### 追記

明治天皇は、徳川幕府に変わる天皇制による近代国家の確立を目指すために地方巡行を行ない、明治9年、松島を訪れた。その際に瑞巖寺を行在所として宿泊された。この時には牛の出番はなかったが、およそ300年の時を経て天皇をお迎えする政宗の夢はようやく実現した。

参考資料 『郷土史 仙台耳ぶくろ』 三原良吉／著 宝文堂 1982.11  
『修正増補 仙台地名考』 菊地勝之助／著 宝文堂 1971.1



『100年前の仙台を歩く  
仙台地図さんぽ(第6版改定増補)』  
イーピー風の時編集部／発行  
P16 榴ヶ岡界限6より

『名掛丁・東名会  
～きのう・きょう・あしたⅡ』  
名掛丁東名会／編集  
P55 町名の変更より

